



KAWASAKI CITY



チームでつなぐ 地域の未来

川崎市立 川崎病院

Kawasaki Municipal Hospital

地域医療支援病院／地域がん診療連携拠点病院
日本医療機能評価機構認定病院
卒後臨床研修評価機構認定病院
外国人患者受入れ認証制度認定病院

基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安心安全で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。

2016年1月

病院運営方針

基本理念を踏まえ、自治体病院の使命と役割を果たし、市民に信頼される安全安心で質の高い医療を継続的かつ効率的に提供していくために、次の方針を定めます。

- ① 患者さんの声を尊重し、高い倫理観をもって医療にあたります。
- ② 地域の基幹病院として、地域の医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる、良質な急性期医療および専門性の高い医療を提供します。
- ③ 救急医療、がん医療、周産期医療、災害時医療の充実を図ります。
- ④ 地域の医療機関との連携を大切にします。
- ⑤ 教育、研究を推進し、職員の知識、技術の向上と人材育成に努めます。
- ⑥ 安全管理の向上に努めます。
- ⑦ 健全な経営基盤の確立に努めます。
- ⑧ 職場の経営意識の高揚を図るとともに、働きがいのある職場づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、患者さんの医療にかかわる、次の権利を尊重します。

- ① 生命の尊厳と、人格を尊重した医療を受ける権利があります。
- ② 安全安心で質の高い医療を平等に受ける権利があります。
- ③ ご自身の病気や治療について知る権利を持ち、わかりやすく説明を受け、希望や意見を述べる権利があります。なお、病名や予後について知りたくない場合は、そのお気持ちを尊重します。
- ④ ご自身が受ける医療を自らの意志で選択あるいは拒否する権利があります。
- ⑤ ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師および他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
- ⑥ 診療上の個人情報とは厳重に保護され、その秘密は守られます。

院長挨拶

当院は、救急医療と高度急性期医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科医療の基幹病院として、地域医療水準の向上に努めました。令和3年8月には認知症疾患医療センターの認定を受け、令和4年4月から地域がん診療連携拠点病院に指定されました。川崎市南部の地域性を踏まえて、外国語での受診体制を整え、令和5年度はJ M I P（外国人患者受け入れ医療機関認証制度）を受審し、認証を受けました。

今後増加する医療需要を見据えながら引き続き、わたしたちは満足度の高い医療を提供するために、技術面、コミュニケーション、医療環境などあらゆる視点から医療の質を高める努力を継続したいと考え、患者さんから信頼され、選ばれ、そして愛される病院を目指して全員が一丸となって努力してまいりたいと存じます。



第18代 病院長
野崎 博之

- 1 名 称：川崎市立川崎病院
- 2 所 在 地：神奈川県川崎市川崎区新川通1 2－1
- 3 開 設 者：川崎市長 福田 紀彦
- 4 病院長名：野崎 博之
- 5 病 床 数：713床（一般663床 精神38床 感染12床）
- 6 診 療 科：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、血液内科、糖尿病内科
 内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、感染症内科、新生児内科、ペインクリニック内科
 肝臓内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科
 小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、血管外科、精神科、アレルギー科、リウマチ科
 小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科
 放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科
- 7 認定施設：地域医療支援病院 災害拠点病院
 救急告示病院 第二種感染症指定医療機関
 地域がん診療連携拠点病院 周産期母子医療センター
 川崎市小児急病センター 神奈川県精神科救急基幹病院
 認知症疾患医療センター 病院機能評価3rdG:Ver.2.0
 神奈川県難病医療指定病院 紹介受診重点医療機関
 外国人患者受入れ認証制度認定病院（JMIP）

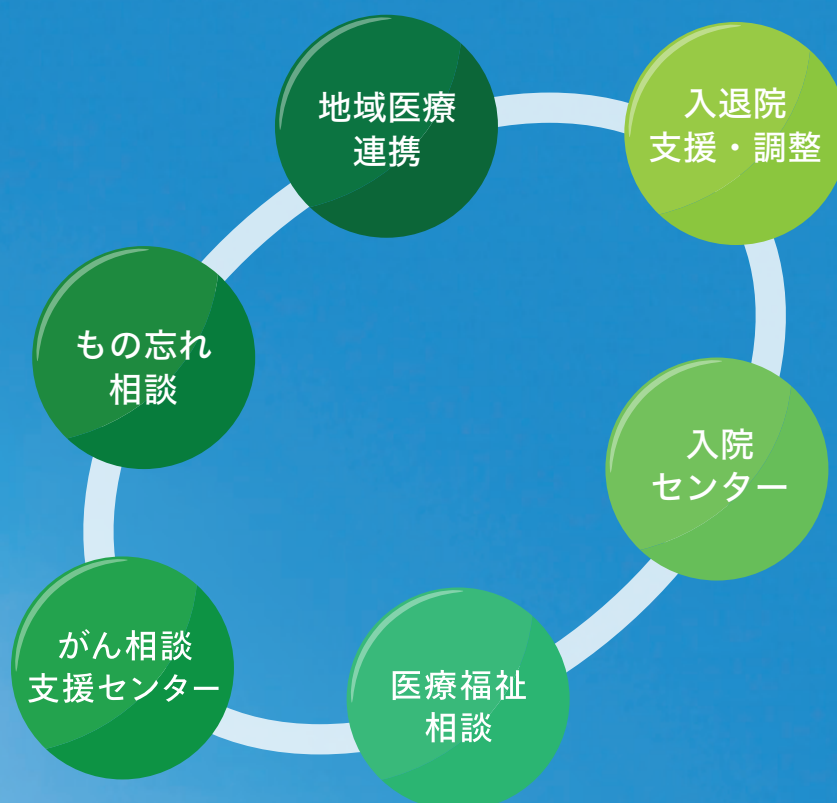
■専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

日本小児科学会小児科専門医研修施設	日本小児科学会小児科専門医研修支援施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設	日本認知症学会認定教育施設
日本神経学会専門医制度教育施設	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	日本胆道学会認定指導施設
日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設	日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院
日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター	日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練基幹施設
胸部外科教育施設協議会修練施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定関連施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院	日本集中治療医学会専門医研修施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設	日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本手外科学会認定研修施設	日本形成外科学会認定教育関連施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本核医学会専門医教育病院
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関	日本リハビリテーション医学会認定研修施設
日本IVR学会専門医修練施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本口腔外科学会関連研修施設	日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本病理学会研修認定施設B	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
日本脈管学会認定研修指定施設	日本食道学会全国登録認定施設
腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設
日本頭頸部外科学会準認定施設	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本消化管学会胃腸科指導施設	日本脊椎髄病学会脊椎髄外科専門医基幹研修施設
日本周産期・新生児医学会専門医制度暫定認定施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設	日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医研修施設
神奈川県医師会母体保護法指定医師指定研修機関	日本超音波医学会超音波専門医研修施設
日本肝臓学会認定施設	日本糖尿病学会教育関連施設
日本透析医学会教育関連施設	日本高血圧学会認定研修施設
日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設	日本血栓止血学会認定施設
日本血液学会認定専門医研修認定施設	

（順不同）

患者総合サポートセンターは、地域医療連携、入退院支援・調整、医療福祉相談、がん相談支援センターで構成されています。

地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化、患者さんへの質の高いきめ細やかな支援を行う相談支援体制を整え、地域や社会の架け橋となれるように努めています。



①地域医療連携



地域の医療機関の皆様からの受付や相談窓口として、また、顔の見える密接な地域連携を目指し、以下の業務を行い連携強化に努めています。

- 外来診療の事前予約受付
- 診療情報提供書の管理
- 地域医療機関等との連携

②入退院支援・調整



入院中の患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、可能な限り住み慣れた地域でその人らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、多職種と協働し、退院支援や調整を行っています。

また、外来通院中の患者さんの在宅療養支援も行っています。

③入院センター



入院を予定している患者さんやご家族に入院中の生活や検査・治療・手術に必要な事項の説明を行います。

さらに、常用薬や、病歴、日常生活の問題点や入院に対する不安等を聞き取り安心して入院し、不安なく退院できるようサポートしています。

④医療福祉相談



病気やけがをきっかけに生じる生活上の問題について、医療ソーシャルワーカーが社会福祉の立場からご相談に応じています。患者さんやご家族と一緒に考え、問題解決の支援を行っています。

また、転院調整や施設入所の調整も行っています。

⑤がん相談支援センター



患者さんやご家族等に信頼できる情報提供を行うことで、その人らしい生活や治療選択ができるように相談支援を行っています。

がんと診断されたときから、治療・症状・副作用・仕事・療養生活のことなど、どのようなことでも相談を受付けています。

⑥もの忘れ相談室



認知症の予防・早期発見・治療・介護についての相談窓口です。ご相談は電話または面談により精神保健福祉士・公認心理師が対応いたします。必要に応じて適切な関係諸機関のご紹介をいたします。

また、当院の「もの忘れ外来」への受療相談もお受けしております。

市立川崎病院は厚生労働大臣より令和4年4月1日から「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。

川崎病院では、肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんの五大がんのほか、脳神経外科、血液内科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、耳鼻咽喉科等において、手術や放射線治療、抗がん剤を使った化学療法などを組み合わせた治療や、様々な疾患を併せて持つ患者さんの受入れも行っています。

今後も、地域に密着した、がん医療の拠点となる病院として質の高いがん医療を提供してまいります。

■ 内視鏡センター

当院は日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されており、各診療科の医師が横断的に連携し最良のがん診療を志しています。

内視鏡センターでは消化器、呼吸器それぞれの分野でNBI・拡大観察、超音波内視鏡、ナビゲーションシステムなどを取り入れ、精度の高い内視鏡診断と治療を提供しています。消化管がんをはじめ、発見の難しい膵臓がんなどに対しても積極的な早期診断を行う体制を整えています。



■ 外来治療センター

外来治療センターは、外来通院しながら、抗腫瘍薬や、生物学的製剤による治療を受ける患者さんが、安心して治療を受けられるように設置された施設です。

快適に治療を受けられるように、リクライニングチェア、ベッドが用意されており、専任の看護師が治療中の患者さんの看護にあたります。

看護師は治療に関するご相談にも対応しており、院内の「がん相談支援センター」とも連携をとっています。

治療に使用する薬剤は、薬剤調整室で、薬剤師が無菌的に調整しています。

■ ロボット手術センター

当院では、2016年7月から、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ (da Vinci)」を用いた手術を開始し、これまでに前立腺癌、腎癌、胃癌に対して、合計で300件以上のロボット支援手術を行ってきました。

今後さらに適応拡大が予想される中で、当センターは、泌尿器科、外科、呼吸器外科、産婦人科を中心とした複数の診療科と臨床工学士が一つの部門として集約することで、万全の機器管理のもと、機能的に手術できる体制を構築し、よりハイレベルな「技術」「治療環境」「サポート体制」を提供してまいります。



■ 放射線治療

直線加速器「リニアック」という装置を用いて、目的の部位に放射線を局所的に照射し、がんなどの治療を行います。

リニアックに付属しているX線撮影装置、CT撮影装置による位置照合や、リニアックとは独立した画像誘導システムと体表面情報誘導システムによる位置照合で、最大で並進3軸+回転3軸で高精度の位置補正を行うことができます。

また、強度変調放射線治療「IMRT」を応用した強度変調回転照射法「VMAT」が可能となり、従来行っていたIMRTと比べて正常組織への影響を抑えることができます。



■ PET-CT

PET-CT検査は、 ^{18}F -FDG (フルデオキシグルコース) という検査薬を注射した後に撮影を行い、細胞の状態や働きをみる検査です。がんや心臓・脳の病気の診断に役立ちます。

^{18}F -FDGは、放射性核種のフッ素 (^{18}F) で標識された、ブドウ糖によく似た構造の薬剤です。

がん細胞はブドウ糖の代謝が活発なため、正常な細胞の3～8倍ものブドウ糖を取り込みます。

この性質を利用し、がん細胞が ^{18}F -FDGを取り込む様子を画像化することで、がんの有無や位置を調べることができます。

当院では、理念にある『安全・安心で質の高い医療』を提供できるようスタッフ一丸となり、チーム医療を実践しています。



NST(栄養サポートチーム)

食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士など、多職種が連携して活動を行っています。



褥瘡対策チーム

毎週、皮膚科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士の多職種のメンバーで連携を図り、褥瘡の予防と治療・看護ケアを実施しています。



DCT(認知症ケアチーム)

認知症の患者さんを対象に、症状の悪化を予防し、身体疾患の治療が円滑に受けられ、地域に繋ぐことを目指し、神経内科医・認知症看護認定看護師・老年看護専門看護師・精神保健福祉士などの多職種、メンバーで連携を図りながら毎週、病棟ラウンドを行っています。



排尿ケアチーム

下部尿路機能障害の患者さんを対象に、入院中から退院後も継続して、排尿の自立に向けて多職種が連携して活動しています。



感染対策チーム

実践的チームとして組織横断的に院内における集団発生および感染管理を迅速かつ機動的に活動することを目的に、感染対策チームを設置しています。



RST(呼吸サポートチーム)

人工呼吸器を使用している患者さんを対象に、人工呼吸器からの早期離脱、早期離床、転院あるいは在宅への移行へ向けての支援を行っています。医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士など多職種が連携して活動しています。



緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、患者さんやご家族の抱えるつらさを和らげ、QOL(クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)を向上させることを目的としています。



摂食嚥下支援チーム

摂食嚥下機能障害を有する患者に対し、摂食嚥下に係る専門知識を有した多職種チームによって適正な食形態及び食事姿勢を選定し患者のQOL向上を図ることによって誤嚥性肺炎予防に努めます。内視鏡下嚥下機能検査や嚥下造影検査は当院で実施しています。



■ 救命救急センター

平成18年(2006年)4月、救命救急センターが設置されました。重篤な救急患者(3次救急患者)に対応する川崎南部地域の重要拠点となっています。年間1,200~1,500人の3次救急患者が救急搬送されてきます。1階にER(救急室)と9階に救命病棟(EICU 4床、HCU 16床)を配置し、「断らない救急」を目指し24時間体制で対応しております。

■ 救急医療機能実績(令和5年度)

3次救急搬送内訳	
CPA	385
重症脳血管障害	93
重症外傷	82
重症呼吸不全	69
重症急性中毒	55

※CPA蘇生率 9.4%

(令和5年度 救急搬送受入件数 6,578件)

■ 小児急病センター

川崎市南部の小児急病センターとして、平成14年(2002年)に開設されました。現在、土・日・祝日および夜間に小児科医が初期診療を行っております。

■ 地域周産期母子医療センター

地域周産期母子医療センターは平成22年に認定を受け、日本周産期新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）を中心に、周産期救急の積極的な受け入れやハイリスク妊娠・分娩の管理を行っています。それに合わせて新生児集中治療室（NICU）6床、新生児回復室（GCU）18床を整備し、専任の新生児内科医師による対応を行っています。

助産師、新生児集中ケア認定看護師、ソーシャルワーカーを含めたチーム医療により、赤ちゃんへのより良い看護ケアに努めるとともに、退院後の育児支援を図っています。退院後のフォローアップでは、小児科をはじめとする各科と協力しながら対応しています。



■ 精神科救急医療

神奈川県精神科基幹病院のひとつとして、4県市協調体制の精神科救急及び身体合併症を有する急性期の精神科患者の受け入れを行っています。

医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士など多職種によるチームカンファレンスなどを行い、総合病院ならではの社会復帰への支援づくりに励んでいます。

■ 高度脳神経治療センター

急性期脳血管障害患者の治療の迅速化・合理化を図るために、平成29年（2017年）4月1日に高度脳神経治療センターを開設しました。脳血管障害（脳卒中）には、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血が含まれますが、高齢化社会に伴い、これらの疾患に対する急性期治療は、ますますその重要性が高まっています。

当センターは、脳神経外科、神経内科、救急科などの複数の臨床科と密な連携を図り、迅速かつ正確な急性期脳卒中治療を提供します。

■ 外国人患者受入れ認証制度(JMIP)の認証を取得しました

当院は令和6年(2024年)6月に外国人患者受入れに関する認証制度「JMIP」の認証を取得いたしました。川崎市では初めて取得した医療機関となりました。

JMIPとは Japan Medical Service Accreditation for International Patients の略称であり、日本語での名称は外国人患者受入れ医療機関認証制度となります。厚生労働省が「外国人の方々が安心・安全に日本の医療サービスを楽しむことができるように」、外国人患者の円滑な受け入れを推進する国の事業の一環として策定し、一般社団法人日本医療教育財団が医療機関の外国人受け入れ体制を中立・公平な立場で評価する認証制度です。

川崎市の人口がおよそ154万人いる中で外国人住民登録者数はおおよそ5万2千人とされています。およそ3.3パーセントが外国人という割合です。(令和6年4月現在)

国籍も、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、ネパール、インドなど様々であり、言語も多様です。

当院の取組としては、指差しツールの充実、同意書の他言語化対応、医療通訳システムの導入を行い、地域の外国人患者の対応の充実を図りました。

今後も引き続き、国籍、言語により、医療の質に差別化することがないように、内容取組を継続してまいります。



■ コロナリーホットライン

循環器疾患は迅速な対応を必要とすることが多く、特に急性冠症候群(急性心筋梗塞、狭心症)は昼夜を問わず緊急の冠動脈造影、冠動脈形成術(PCI)が必要です。川崎市内でも、循環器ホットラインを運用している病院は多くあります。

当院では以前より循環器当直を置き、急性心筋梗塞に24時間対応するように体制を整えてきました。令和元年(2019年)9月から救急隊との間でコロナリーホットラインを運用してまいりました。この度、2020年10月から診療所・クリニックの先生方からの受入要請に対応する体制が整いました。

ホットラインは24時間/365日、循環器内科医師が直接お受け致します。



対象疾患：急性冠症候群(急性心筋梗塞、狭心症)を疑う「胸痛」を訴える症例。

実績：令和4年度52件、令和5年度40件

■ アルツハイマー型認知症の新しい治療薬 レカネマブの治療を開始しました

令和5年(2023年)12月20日に保険適用となり、販売が開始された新薬で、アルツハイマー型認知症の原因物質であるアミロイドβを脳から除去することで、認知機能障害の進行を遅らせることができます。治療の対象はアルツハイマー型認知症による軽度認知障害(MCI)もしくは軽度認知症の方です。

当院では、薬の使用に際し厚生労働省が定めた『最適使用推進ガイドライン』を遵守し、この新薬を安全かつ適切に使用できるよう、診療科、薬剤部と十分な準備を整えてまいりました。

投与にあたっては、アミロイドβの蓄積状況を調べるアミロイドPET/CT検査もしくは脳脊髄液検査が必要となり、脳神経内科と放射線診断科と連携を行いながら、どちらの検査も当院で実施することができます。

また、令和6年1月から診療、検査、投薬を行い4月時点で17名実施しました。

当院の認知症疾患医療センターが脳神経内科外来でご相談ください。

医師は日本認知症学会専門医の資格を有している脳神経内科医が診察を行います。



■ パーキンソン病等に対する深部脳刺激療法(DBS)の認定施設として指定を受けました

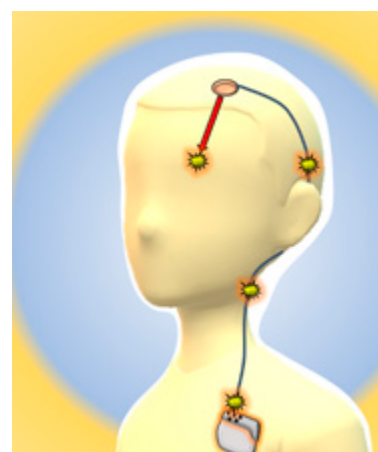
令和5年(2023年)にDBS技術認定施設に指定を受けました。

日本定位・機能神経外科学会から指定を受けるためには、過去3年間の観血的機能的定位脳手術症例登録数が24例以上行うことが条件となっており、この度「機能的定位脳手術技術認定施設」として指定を受けました。(令和6年4月現在通算46症例)

令和3年(2021年)より川崎病院でパーキンソン病、本態性振戦、その他の不随意運動に対する手術治療として深部脳刺激療法(DBS)を導入しました。順天堂大学脳神経外科梅村淳教授の支援を受けて順調に症例を重ねることができました。現在神奈川県内で新規症例を受けている病院は当院含めて3病院となっております。

手術の必要性等に関して脳神経内科医長の北園医師と脳神経外科部長の片山医師が丁寧に説明させていただきます。薬物・理学療法でお困りの症例がございましたら是非ご紹介ください。脳神経内科と脳神経外科が密に連携を取り、術後経過も含めフォローしています。DBSは、保険収載された治療ですので、金銭的な負担も大きくはありません。

また、毎週火曜日午後にはDBS相談会(要予約)を開催しており、こちらで患者様に説明させていただくことも可能です。



DBS

■ 災害拠点病院

平成10年(1998年)3月、神奈川県災害医療拠点病院に指定されました。市内救急医療派遣チームをはじめ、DMAT(災害派遣医療チーム)を備えています。

また、屋上にはヘリポートを完備し、災害時や多数傷病者発生時、災害拠点病院の市立井田病院などと連携し、広域搬送の拠点として対応する体制づくりを行っています。



■ DMAT・ワンピース

川崎病院では、市内で発生した災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する「市内救急医療派遣事業(通称:Kawasaki ONE PIECE)」や、大規模な災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する川崎DMAT(災害派遣医療チーム:Disaster Medical Assistance Team)、さらに、神奈川県内外で発生した大規模な災害や事故等の現場に医師等の医療チームを派遣する神奈川DMATとして派遣され、現場で活動した実績もあります。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、DMAT隊を派遣しました。



■ 感染症指定医療機関

当院は川崎市内で唯一の第2種感染症指定医療機関であり、新型コロナウイルス感染症を令和2年2月6日よりダイヤモンドプリンセス号からの受け入れを早々に実施し、計11名を受け入れました。

厚生労働省・神奈川県・空港検疫所・川崎市から新型コロナウイルス陽性患者の受入要請があり、コロナ診療における適切な療養環境の整備、関わる医療従事者への教育を実施した結果、国内感染者数として、令和5年4月まで約1,200名のコロナ陽性者の受け入れを実施しました。

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種は、地域医療機関の医療従事者向けに行い、令和4年2月までに約23,500回実施し、市民向けのワクチン接種は川崎市の接種会場へ医師、看護師、薬剤師を派遣しています。



人材育成・医療の質向上

■ 臨床研修指定病院

川崎病院の医師臨床研修の歴史は古く、昭和42年(1967年)から続いています。開始当初は3年制教育を提供していましたが、昭和52年(1977年)に、現在の臨床研修制度と同様の2年制教育に移行しました。

「手厚い導入教育」、「充実した救急研修」、「自由度の高い研修ローテーション」などの特徴が好評で、10名の定員に対して200名以上の医学生が応募する全国でも有数の人気病院です。令和4年度(2022年度)に医師臨床研修マッチング協議会が公表した希望者数と定員充足率は、ともに全国第1位でした。

病院の理念である「患者さん中心の医療」を深く理解し、実践できる人材の育成を、病院一丸となって目指しています。豊富な臨床経験を積みながら、さまざまな研修会・講習会を通じて、知識と技術をバランス良く身につけることができるプログラムです。NPO法人卒後臨床研修評価機構による外部評価においても、教育の質が高く評価されています。

川崎市の姉妹都市である北海道中標津町の町立病院で、地域医療に関する研鑽を積むこともできます。さらに、川崎市健康安全研究所の協力を得て、公衆衛生行政に関する学習機会も用意されています。



■ 臨床研究支援

医療の質向上に資する臨床研究や治験の推進を主な目的として、平成22年(2010年)「臨床研究支援室」を設置しました。院内教育の積み重ねにより、臨床現場で見られるクリニカル・クエスションをもとに企画された数多くの臨床研究が、様々な職種から提案されるようになりました。

川崎病院における臨床研究は、「治験審査・臨床研究倫理審査委員会」による厳格な確認と指導を通じて、研究倫理の遵守や個人情報の保護が徹底されています。

病院全体に浸透しているリサーチ・マインドをもとに各部門で実践された研究成果は、「川崎病院研究交流会」の場で共有され、川崎病院が提供する医療のレベルアップにもつながっています。

■ 看護部

「私たちは、患者さんと共に考える心のかよいあう看護をします。」という理念のもと、看護部では、患者さん一人ひとりの思いを大切にしながら看護ケアを提供しております。

また、市立病院として、多岐に渡る当院の役割を果たし、市民の皆様が安心して医療を受けることができるように、多くの医療チームと協働し、看護の専門職としての力を発揮しております。当院の看護部には、専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了看護師、並びにアドバンス助産師など、高い専門性を持った看護師、助産師が多く所属しており、最新の看護技術を探求しながら、日々、患者さんにとって最善の看護ケアの提供に努めております。



■ リハビリテーション科

当院のような急性期病院では、さまざまな疾病や外傷、またその治療に伴う安静・臥床によって障害が残存し、入院前の身体機能を維持できず、身の回りの動作や歩行が困難となる可能性があります。

当科ではそのような患者さんに対し、できるだけ障害を軽減し、歩行や身の回りの動作の自立を図り、早期の自宅復帰ができるように、理学療法・作業療法・言語療法・嚥下療法等の様々なリハビリテーション医療を提供しています。



■ 放射線科

放射線科ではX線撮影、CT、MRI、核医学・PET-CT、カテーテル治療IVR、放射線治療の部門があります。患者さんの安全を第一に、放射線科医師と診療放射線技師、看護師などを多職種で連携し、チームで検査、診断、治療を行っております。



■ 薬剤部

「薬物療法が安全に実施されるための最後の砦となり、全ての患者さんを薬物事故から守る。」という理念のもと、調剤、注射薬抽出し、抗がん剤調製、在庫管理等の業務を安全確実にしています。

また、医薬品情報業務や病棟への薬剤師配置も徐々に充実化を図っており、患者さんへの服薬指導、副作用モニタリングのほか、医師や看護師への情報提供、持参薬確認などを通じて薬物療法の有効性・安全性の向上に努めています。



■ 検査科

検査科は、生理検査部門、細菌検査部門、病理検査部門、検体検査部門（プランチラボ）、血液センター（輸血部門）、採血室の6部門で構成されています。臨床検査技師と兼務医師（病理診断科・放射線診断科・内科）が診療現場を支えています。関連学会・技師会・各種認定機構が定める多彩な専門資格を取得したスタッフが、質の高い業務を実践しています。



■ MEセンター

呼吸療法業務、人工心肺業務、人工透析業務、心臓・カテーテル業務、ペースメーカー業務、ME機器保守点検業務、また手術室や内視鏡室業務など多岐にわたる業務を医師・看護師などの他職種の関係スタッフと連携しながら行っています。



■ 食養科

食養科は管理栄養士が患者さんの栄養管理、栄養指導を行い、チーム医療においては多職種と連携しながら栄養改善に努めています。

食事サービスでは「治療の一環として安全でおいしい食事の提供」の理念のもと、委託会社と協力し入院患者さんへお届けしています。



常食献立A



常食献立B

【管理栄養士による栄養相談】

糖尿病患者向けの栄養相談を開設しています。管理栄養士の栄養相談が必要な場合、ご紹介ください。ご依頼いただいた医療機関へ診療情報とお届けします。

【チーム医療の一員として】

管理栄養士として積極的にチーム医療に参加しています。

- ①栄養サポートチーム ②摂食嚥下支援チーム ③透析予防チーム ④褥瘡対策チーム ⑤緩和ケアチーム
⑥心臓リハビリテーションチーム

■ 主な診療実績（令和5年度）

内科

疾患名	患者数
消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	1,218
呼吸器系疾患	1,141
循環器系疾患	607
血液・造血器・免疫臓器の疾患	584
神経系疾患	473
腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患	259
内分泌・栄養・代謝に関する疾患	201
その他感染症及び敗血症	176
筋骨格系疾患	123
外傷・熱傷・中毒	41

産婦人科

疾患名	患者数
子宮の良性腫瘍	218
分娩の異常	169
胎児及び胎児付属物の異常	151
子宮頸・体部の悪性腫瘍	127
卵巣の良性腫瘍	68
早産、切迫早産	52
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	47
子宮内膜症	38
妊娠中の糖尿病	36
流産	27

整形外科

疾患名	患者数
脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）腰部骨盤、不安定椎	190
股関節・大腿近位の骨折	84
膝関節症（変形性を含む。）	60
股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	60
脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）頸部	58
椎間板変性、ヘルニア	56
前腕の骨折	55
肘関節周辺の骨折・脱臼	46
四肢筋腱損傷	45
足関節・足部の骨折・脱臼	37

皮膚科

疾患名	患者数
壊死性筋膜炎	18
水疱症	16
皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	14
带状疱疹	14
膿皮症	13
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	12
黒色腫	12
皮膚の良性新生物	10
糖尿病足病変	5
頭頸部悪性腫瘍	4

外科

疾患名	患者数
消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	709
呼吸器系疾患	276
腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患	133
循環器系疾患	128
乳房の疾患	98
血液・造血器・免疫臓器の疾患	34
その他	13
新生児疾患、先天性奇形	10
外傷・熱傷・中毒	8
筋骨格系疾患	7

耳鼻咽喉科

疾患名	患者数
頭頸部悪性腫瘍	125
扁桃、アデノイドの慢性疾患	38
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	31
耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	29
慢性副鼻腔炎	23
甲状腺の悪性腫瘍	18
顔面神経障害	15
慢性化膿性中耳炎・中耳真珠腫	10
声帯の疾患（その他）	10
滲出性中耳炎、耳管炎、耳管閉塞	9

脳神経外科

疾患名	患者数
脳腫瘍	117
頭蓋・頭蓋内損傷	39
脳血管障害	29
未破裂脳動脈瘤	21
パーキンソン病	17
脳梗塞	16
非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	16
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	15
非ホジキンリンパ腫	14
水頭症	8

形成科

疾患名	患者数
皮膚の良性新生物	15
顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	15
眼瞼下垂	12
骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	12
瘢痕拘縮	10
眼瞼、涙器、眼窩の疾患	6
褥瘡潰瘍	4
膿皮症	3
骨髄炎（上肢以外）	3
ざ瘡、皮膚の障害（その他）	3

眼科

疾患名	患者数
白内障、水晶体の疾患	218
角膜の障害	25
黄斑、後極変性	20
網膜剥離	12
硝子体疾患	11
結膜の障害	3
糖尿病性増殖性網膜症	3
手術・処置等の合併症	2
緑内障	2
眼の良性腫瘍	2

小児科

疾患名	患者数
妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害	298
食物アレルギー	142
肺炎等	121
喘息	113
てんかん	92
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	90
急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	89
その他の感染症（真菌を除く。）	73
熱性けいれん	61
川崎病	53

泌尿器科

疾患名	患者数
前立腺の悪性腫瘍	300
膀胱腫瘍	267
上部尿路疾患	152
腎盂・尿管の悪性腫瘍	111
腎腫瘍	61
水腎症等	53
前立腺肥大症等	45
下部尿路疾患	41
腎臓又は尿路の感染症	25
男性生殖系疾患	22

精神科

疾患名	患者数
気分〔感情〕障害	92
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	77
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	13
その他の精神及び行動の障害	12
認知症	9
間脳下垂体疾患（その他）	3
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	3
パーキンソン病	1
アルコール依存症候群	1

交通アクセス Access Guide



■ 最寄駅

JR川崎駅 東海道線にて東京駅から20分、品川駅から11分、横浜駅から8分

■ 市バス

川崎駅東口バス乗り場11/14/15/16番乗り場より約5分、「カルッツ川崎・富士見公園前」下車、徒歩5分

■ ワンコインバス

川崎駅東口バスターミナル19番乗り場より約8分、直通「川崎病院」行き、大人・小児とも100円、7時40分～18時運行(平日のみ)

■ 臨港バス

川崎駅東口バス乗り場1/2/5/7/8番乗り場より約5分、「さつき橋」下車、徒歩3分

■ タクシー

川崎駅東口より約5分



COLORS FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th



川崎市立 **川崎病院**
Kawasaki Municipal Hospital

〒210-0013 川崎市川崎区新川通12-1
TEL.044-233-5521 (代表)
<https://www.hospital-kawasaki.city.kawasaki.jp/>

令和6年8月1日発行